

経腸栄養用注入ポンプについて

経腸栄養用注入ポンプを使用することで、経腸栄養の合併症である下痢や嘔吐、誤嚥や誤嚥性肺炎発症の頻度が低下するとされています。



図 1 当院で使用されている経腸ポンプ
(株) ソリューション



図 2 ポンプ用栄養セット

操作方法

1. ポンプホルダーのガイドレールにポンプ本体を乗せ、「カチッ」と音がするまで本体を押し込みます。
2. 「電源（入/切）」ボタンを約一秒押して、電源を入れます。電源が入ると音が鳴り、自動診断を開始します。画面に 1 から 4 の数字

とすべての表示マークが表示され、次に前回投与時に設定した数値（初めて使用する場合は、出荷時に設定された数値：投与レート 100mL/h、目標投与量 500mL）が表示されます。

3. ドアレバーを引き、ポンプ本体のロックを解除したのちにドアを開けます。チューブクランプの向きに従い、栄養チューブを取り付けます。ポンプ駆動部の上に栄養チューブを沿わせ、下部チューブガイドに固定します。栄養チューブを取り付ける際は栄養チューブのたわみや引っ張りすぎないようにします。ドアレバーを下げたままポンプドアを閉め、ドアをロックします。
4. 投与速度設定の「上げる」「下げる」のボタンを押して、投与速度を設定します。目標投与量設定の「上げる」「下げる」のボタンを押して、目標投与量を設定します。投与速度と目標投与量の両方を正しく入力し、設定値を画面にて確認します。
5. 栄養チューブの先端を、患者に留置されている経鼻カテーテルあるいは胃瘻カテーテル等に接続します。
6. 「開始/停止」ボタンを押して、投与を開始します。
7. 投与が完了したら、「開始/停止」ボタンを押して、投与を停止します。
8. 「電源（入/切）」ボタンを約 1 秒間押し続けて、電源を切ります。

保守点検事項

項目	頻度	点検内容（概略）
使用前 点検	毎回 使用前	<ul style="list-style-type: none"> ・本体及び付属品の破損の有無 ・電源コードの接続と通電確認 ・「電源（入/切）」「開始/停止」ボタンの動作確認 ・電源投入時の自動診断 ・<u>ドアの開閉の確認</u> ・<u>ポンプホルダーとの脱着確認</u>
バッテリー	6ヶ月に 一度	内部電源（バッテリー）での動作時間を確認する
使用后 点検	毎回 使用后	本体及び付属品の汚損の確認及び清掃

	みたす。
液つまり	<ul style="list-style-type: none"> ・チューブの屈曲をなおす。 ・栄養チューブをはずし十二指腸チューブを水等でフラッシュ（通水しなければ病院へ）
栄養チューブ誤装着	装着しなおす。
ポンプ駆動部の異常	装着しなおす。
システム異常	業者に連絡。
ポンプドア未閉	ドアを閉める。

アラーム対応（一部）

アラーム	解除法
バッテリー	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセントに接続 ・本体—コードまたはコード—コンセントを確認。
操作忘れ防止	「開始」などボタンを押す。
目標投与量完了	<ul style="list-style-type: none"> ・目標量があっていれば終了させる。 ・栄養剤が多く余っていたら目標投与量の設定を確認。目標量を不増やす
液無し	ポンプから栄養パック＋ルートをはずし栄養剤を追加。ルートまで